

みなみひづめ だいぎん に

# 南日詰大銀Ⅱ遺跡

## 現地説明会資料

### 4 まとめ

●今回の調査では、県内でも希少な 12 世紀代に該当する遺構や遺物が発見されました。溝跡以外、現状では確実に 12 世紀代とする遺構は少ないですが、出土遺物などから掘立柱建物跡の多くがこの時期であると推定しています。(\* 掘立柱建物跡の時期認定は難しく、今後の検討により時期が変更になる可能性があります)

そのほか、古代(平安時代)や中世の遺構・遺物があります。

●調査地は、遺跡の北東側の縁辺部で、その状況(空間の使われ方)がある程度判明しました。

●掘立柱建物跡は、どの時期でも小規模のものがほとんどで、中心的な建物(主屋になりそうな建物)は、この範囲では見つかりませんでした。より内側(南あるいは西側)に存在する可能性があります。

●北側の一段低い地点については、整地が施されている可能性が高いこと(現状では部分的に残存)、いわゆるカマド状遺構(これを生産関連の遺構と仮定するなら)が存在することなどから居住地というよりは工房的な使われ方をしている可能性があります(時期は古代末~中世)。

●出土遺物には、かわらけ、中国産白磁、渥美焼などの国産陶器、土師器、須恵器などがあります。

●大銀Ⅱ遺跡の性格について。これまでの調査及び今回の調査から、12 世紀代の遺構は比爪氏関連の居館である可能性が高いと予想されますが、まだ直接的な証拠が少なく今後の調査が期待されます。



調査区全景(上段)

### 1 はじめに

南日詰大銀Ⅱ遺跡は、これまで紫波町教育委員会により3次の調査が行われています。その結果、12 世紀代の遺構や遺物が濃密に存在することがわかってきました。

今回の調査は、当センターが、北上川緊急治水対策事業(堤防工事)に関わって、岩手河川国道事務所から委託を受けて実施しました。

\*調査に際し、近隣の皆様、紫波町、稗貫衛生処理組合、紫波町教育委員会には多大な協力をいただいています。

### 2 調査要項

遺跡略号 MHDⅡ-18

所在地 紫波郡紫波町大字南日詰字小路口 95 番地ほか

調査原因 北上川緊急治水対策事業

調査期間 平成 30 年 4 月 16 日~

調査面積 (800 m<sup>2</sup>→) 約 1,400 m<sup>2</sup>

調査機関 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

担当者 西澤正晴 河村美佳

委託者 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

### 3 調査の成果 \*現時点での数量

掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・・・ 30 棟

(柱穴)・・・・・・・・・・・・・・ 499 個

竪穴建物跡・・・・・・・・・・・・・・ 1 軒

溝跡・・・・・・・・・・・・・・ 3 条

土坑・・・・・・・・・・・・・・ 25 基

カマド状遺構(あるいは炉)・・・・・・・・ 5 基

# 南日詰大銀Ⅱ遺跡 遺構配置図

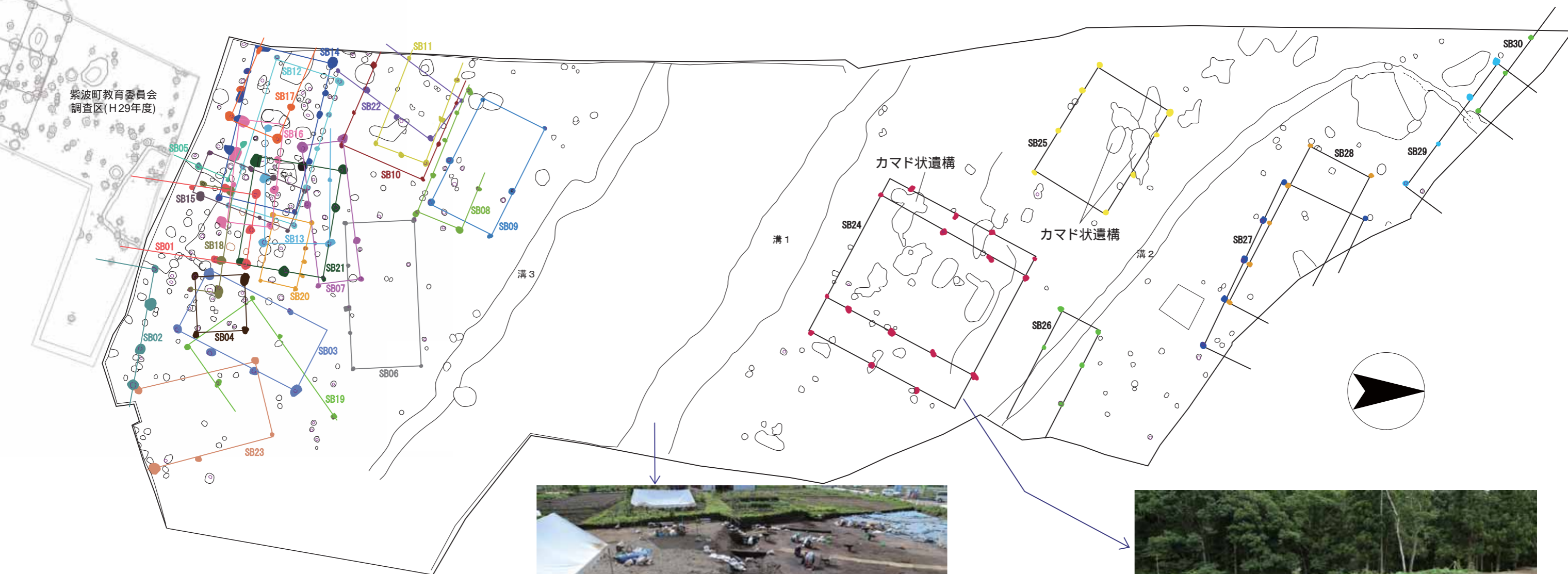
2018.07.20 現在



掘立柱建物跡 (SB01)



カマド状遺構



かわらけが出土した溝跡



掘立柱建物跡 (SB24)